

代沢九条けいじばん

第46号
2019年8月16日発行
代沢九条の会
(代沢2-37-5-101)

「年金足りない問題」で もめた国会、そして 参院選(2019/7/21)



ポイントは？

- 1) 投票率 48.8% (史上2回目の50%割れ)
- 2) 自民党 単独過半数割れ
- 3) 改憲政党(自民、公明、維新) 改憲の発議に必要な2/3に届かず。
- 4) 重度障害をかかえる松後靖彦氏、木村英子氏(ともにれいわ新選組) が当選し、国会に新風が吹いてきた！
- 5) 参議院の女性議員が56名、過去最多に。
- 6) 1票の格差は3倍。違憲訴訟の提訴へ。
- 7) 安倍首相は『改憲を議論する政党か、しない政党か』と訴え、自民党が第1党になったことから、改憲を進める姿勢をあらわに。

参院選挙結果

現在の定数245
自民党113(10減)
立憲 32 (8増)
公明 28 (3増)
国民 21 (2減)
維新 16 (3増)
共産 13 (1減)
その他22 (6増)

あつこちゃん
「まっちゃん」



世界中で異常気象？ 改憲4項目とは？ 年金制度改革？

韓国との関係？ **これからどうなるの？** 英国、EU離脱？

中東へ自衛隊派遣？ 米軍駐留費負担を5倍に？

(問) 公的年金だけでは老後の生活はできないの？

(答) 金融庁の報告書(2019年6月)によると、できない。年金世代夫婦が受け取る平均的な公的年金額では月5万円の赤字になる。95歳まで生きるとして、不足する約2000万円は自分たちで工面すべく、資産運用を考えなさい、というのがアドバイスのようなです。

現在日本全体で、年間約55兆円の年金が高齢者に支払われ、そのうち7割は現役世代の払う保険料から、2割強は国庫負担(税金)から、残りは年金積立金で補われているそうです。寿命が延び、出生数は減り続ける少子高齢化の進行で、このままでは現役が高齢者を支えきれなくなるのは目にみえている。年金制度が破たんしないようにと、現在とられているのがマクロ経済スライド方式。つまり、毎年の賃金・物価の上昇率が大きい場合には年金の増額をそれより低く抑えるやりかた。賃金・物価の上昇率が小さい場合には年金額は変えない。賃金・物価が下落した場合には、下落した率で年金を引き下げる。そのような調整(マクロ経済スライド)を行うことで、国の年金積立金を増やしていき、将来に備えている、というのが厚生労働省の説明です。

いっぽうで、現在でも年金積立金は約160兆円もあり、国内外の株や債券に資産運用して、2018年には2兆円以上黒字だったそうです。

現状を国民にきちんと説明して、今すぐ年金制度の改革に取り組むべし！ 相応な年金受給は憲法25条に基づく国民の権利です。(裏面参照)

代沢九条の会

次回例会は2019年9月22日(日)13:30~16:00

代沢東地区会館(代沢1-31-8)で行います。

*フリーな意見交換の場です。初めての方、ちょこっと興味のかたも、ぜひ。

代沢九条の会事務局 03(3412)6097 (ファックスとも)

URL:<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~daizawa9j/> email: daizawa_9j@gmail.com

戦争できない変な国がいい！



絵本『焼けあとのちかい』

～半藤一利さん(代沢在住)の原点～
渾身のメッセージ

文: 半藤一利

絵: 塚本やすし

2019年7月発行

大月書店 (1500円)



日本には、さまざまな人がいて、さまざまな考え方がある。それでも、根っこに九条をおく。



【沖縄通信-「選挙で何を求めるのですか」】

2019年7月21日、議席数の半数を改選する参議院選挙が行なわれました。沖縄選挙区では、投票期限時刻終了(午後8時)とほぼ同時に、オール沖縄が推薦する「タカラ鉄美」氏の当選確実を、NHKが速報で流しました。

昨年8月に急逝した翁長雄志・前沖縄県知事の後を受けて当選した玉城デニー・現沖縄県知事の勝利、玉城デニー知事が誕生したことにより空白となった衆議院沖縄3区の補選で当選した屋良朝博さんの勝利、沖縄県民投票での辺野古移設反対の勝利。いずれも沖縄の民意は、辺野古新基地建設反対です。しかしそれでも、日本国アベ政権は、沖縄の民意に関係なく、辺野古新基地建設を推進するのでしょう。

沖縄県民は、日本の人口のわずか1%に過ぎません。そして、残りの99%は県外の方々です。皆さんに問います。私達沖縄県民が求める辺野古新基地建設反対は、叶わぬ願いですか？ 皆さんは選挙に何を求めているのですか？ 選挙で平和を求めてはいけないのですか？

(沖縄通信員:岩村利一・幸子)

原発に反対するわけ

毎週金曜日は首都圏原発連合の官邸前抗議行動に参加している。一時は数万人の参加もあったが、この頃は300人ほどに減っている。そのためか顔見知りもできた。いつも会う方に原発に反対する理由を聞いてみた。彼は「放射性廃棄物が問題です。使用済み核燃料が処分できないのに原発を続けるのは無謀です。」という。もっともである。「トイレ無きマンション」に住むわけにはいかない。

私の反対する理由は「嘘で固められているから」である。
①原発は安全。②原発が止まると電気が足りなくなる。③原発の電気は安い。④原発はCO₂を出さないクリーンなエネルギー。これらは全て嘘であることが実証されている。

こんなに嘘を重ねてまで原発にこだわる理由は一つしか考えられない。プルトニウムが欲しいから。プルトニウムは原発の副産物で動かせば動かすほどたまる。プルトニウムを使って核兵器が作れる。(酒井)

♪ 憲法25条のうた♪

～『戦争を知らない子供たち』のメロディにのせて歌いましょう～

社会福祉に 社会保障
公衆衛生 国の努め
すべて国民は 健康で文化的な
生活を営む 権利を有する
僕らの憲法 僕らを守る
憲法を見つけた 子供たちさ

(替え歌～『憲法を知らない子供たち』より)



私の戦中・戦後

小学校に上がる前に二・二六事件、上がってすぐに日中戦争、卒業前に父が病死。米・英・仏・アジア諸国と開戦。ハワイや東南アジアでの戦果に酔いしれていたが、やがてミッドウェイでの大敗北。

兄2人が陸軍、2人が海軍に出征したので、私は中学入学と同時に滑空班に入部。毎日放課後、訓練を受けた。だがこれは2年の夏休みまで。2学期からは国の命令で勤労奉仕。勉強も運動も無し。2学期は関東配電、翌年3学期は防空壕掘り。3年の4月から8月までは軍需工場の旋盤工。これより先、5月の空襲で私の家は全焼。でも焼け跡にバラックを建て、親子4人で暮らした。

戦後、担任の先生に進められ、育英資金を貰って大学に行く。卒業後、中学、高校、大学、予備校などで50年以上教えた。でも大分前から、戦前に戻りたくないかと心配している。(吉澤翁)

空襲体験 その3

昭和20年5月25日夜。B29約250機の焼夷弾攻撃により都心部だけでなく、目黒、杉並、世田谷、中野などに大きな被害があった。代沢の我が家の一区画東南まで延焼したが、幸い我が家周辺は残ったという父からの手紙で安堵した。(私は3月10日の空襲直後に祖父のいる広島県福山市に疎開していた)

それ以後は米空軍の空襲目的は大都市から地方の中小都市へと変わった。そんなある日、道で3人のおばさんが立ち話していたが、その一部には驚いた。「へえ、日本はもう負けるにきまっとるけ」「早う、戦争やめてもらいたいわ、空襲にや、うんざりじゃ」「政府はなにぐずっちよるとか」これが多くの人の本音だったが、公道で大きな声での場面は初。憲兵や特高の眼が怖かった。(土屋翁)

平和な鉄道の旅

韓国をルーツとする衆議院議員と話をする機会がありました。在日2世で、韓国紙の日本特派員も務め、日韓・日朝に多くの人脈のある方です。

そこで、こんな希望を伝えました。「釜山から、中国・ロシア・中央アジア・中近東・ヨーロッパまで、途中下車が自由な鉄道の旅ができるようにならないものでしょうか。できれば、対馬海峡にトンネルを作って日本各地からも出発できると嬉しいなあ」と。

「もうすでに板門店付近で線路はつながっていますから、釜山からなら技術的には可能です。素敵な夢ですね。実現できるように頑張ります。」と語っていました。

鉄道沿線各国・各都市でゆっくりと異文化交流のできるような「平和な鉄道の旅」。そんな積み重ねが、史上最悪と言われる日韓関係や国家間の利害対立をやわらげ、大きく平和に貢献できるのではないのでしょうか。

(深田伊佐夫)